

原発

いのしし
猪とタケノコと放射能

私の好きな食べ物の一つに旬の筍がある。独特のほのかな香りとサクツとした歯ざわりは季節感を伴って初夏にふさわしく、筍とは
たけかんむり
竹冠に旬とは見事な心象文字であると思っている。

毎年大型連休が終わった頃、あちらこちらの産地から新鮮な筍が送られてきて、夫婦だけの生活には余るほどののだが二十三年の今年の状況は違っていた。筍が全く届かないのである。私は果物も山菜も生り年と裏年があるので、今年の筍は裏年なのだろうと思って諦めていた。ところが原因は意外なところにあることを新聞が報じた。元凶は東京電力福島第一原発の事故だったのである。

連日報じられている隣県のハウレンソウや県内の乳牛の放射能線量は出荷停止の数値を示し、さらに、近海の魚介類にも及び静岡県
の茶、岩手県の放牧牛の牛乳にまで広がっていたのだった。当然のこと、筍も汚染された土壤に生えたものだからこの範疇から逃れることは出来ない。散歩の途次に見る今年の竹林は心なしか葉は茶色を帯びて元気がない。その後、毎日のように続くニュースには驚きを超えて恐怖さえ感じた。牛乳の汚染は汚染された稲藁を食べた乳牛から生じ、福島県の漁船はすべて出漁禁止、桃、梨、リンゴ、柿

は許容内とは云いながら放射線の含まれていることが確認された。

仰天したのは、原発事故が起きた近くの碎石場の原石に放射線が多量に含まれていたことである。これは放射線は動物、植物、鉱物にまで浸透するという不気味な事実であった。言うまでもなく人間への影響が大きいことは多言を要さない。ややあつて、各地の放射線量の数値が公式に発表された。何と！県内で二番目に高いのは福島市なのである。積算すると原子力安全保安委員会が発表した年間被爆量の許容量を超えている。私の子供たちは皆福島市内に住んでいて孫がいる。彼らは私には事後報告で子どもたちだけをそれぞれ沖縄、福井県へと避難させてしまった。数字は直ぐに修正され、子どもたちは福島に戻ったのであるが、以来、福島の人々は、原子力安全保安委員会や東京電力、学者の云う数字や説は全くとってよいほど信用しなくなってしまった。ある意味でこれは、原発事故と同じほどの損失かも知れない。

人間が作り出した核物質は不純な兵器として考え出されたものだが、その悲惨さは広島、長崎の惨状で世界中が知るところとなったが、あろうことか、より威力のある兵器にするために各国が競って実験を繰り返し、平和な日々を過ごしていた人々に測り知れない病

苦と苦痛を浴びせ残した。明神丸、ムルロワ環礁は多くの人の知るところであるが、実は、さらに多数の被害者は実験国の兵士たちだったのである。その数は深刻さを増し、その治療法がないことを知ると世界中の良識は、悲難の大渦となって核兵器反対の運動を起した。すると、今度は利便と快適と安価さに目をつけ一部の才走った資本家が、魔法の燃料として原子力発電に転用することを考えたのである。しかし、どんな魔法も手品にもからくりはある。白いも姿も無い核物質は実は恐ろしい実体を蔵^{かく}していたのである。

東京電力福島第一原発の事故は、宮城県沖の海底で起きた大地震が誘発した大津波が原因とされているが、備えの不備とそれに携わる人たちの心の弛緩は、理屈や言い訳を百万言を並べ、頭を何遍下げても問題の解決は見え出せない。恐怖域と深刻さは日に日に範囲を広げ、安心と安全を取り戻すには二十年乃至は四十年以上は要するだろうといわれている。もつとも四十年後の筍を食べる時間は私には残されていないが・・・でも、あの世では何でも手に入るといわれているからもしかしたら四十年後も食べているかも知れない。その頃には天上界までは放射能も届いていないことを願いたい。

筍ばかりは堀取ったものをそのまま刺身で食べるのが一番美味し

いと経験が教えている。

折も折、福島県の最南端、矢祭町の奥の奥、その先には集落がな
いという八溝山の麓ふもとの茗荷というところで採れた筍には、放射能が
含まれていないからと古い知人からお誘いの電話をいただいた。私
は日ごろのご無沙汰の詫びを兼ね、お邪魔することにした。ところ
が現実には、お互いの年齢を重ねた皺にびっくりする以上に驚く出来
事があった。

お目当ての筍は集団で襲来した猪にすっかり食べ尽くされてしま
っていたとのことであった。さらに、今を盛りとするはずの山菜は、
浜通り、中通りの愛好家たちが津波の如く押し寄せ、放射線量値が
低いことを何よりの希少価値とする人々の採取によって、裸山にな
っていたことであつた。原発の核の威力は、遠く離れたところでも
意外な場面で被害を与えていたのである。

猪が異変を感じ、大挙移動して来たとも思えないが、猪のあの大
きな鼻を考えると彼らの超能力を信じたくもなってしまう。「糞あつものに
懲こりて・・・」の心理はこれほどに懷疑を膨らませてしまっている
のであつた。これは単なる笑いごとではない。懷疑とは払拭しきれ
ない魔力をも持っているからである。